



インテリアデザイン研究室

Interior Design Lab.

大石 容一

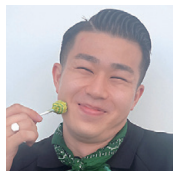
OISHI, Yoichi / Professor

BAR 人々が集う場所へ

BAR: Into a place where people gather

大学生生活を振り返ると、常にお酒がそばにあった。飲酒を行う場所は大きく二つに分けられる。安価で飲める家飲みと、お店で飲む外飲みだ。同じお酒を飲むなら安く済む家飲みで良いかも知れないが、私はBARで飲むことを好んだ。それはカッコいい空間でお酒を飲んでいる自分に酔いしれたいだけではない。例えばハイボール。同じグラス、同じウイスキー、同じ炭酸水を使用して作ったとしても、決して同じ味にはならない。ハイボールの味を決める要素として、グラス、ウイスキー、炭酸水に加え、空間デザインが入ることを4年間飲み続けることで分かった。

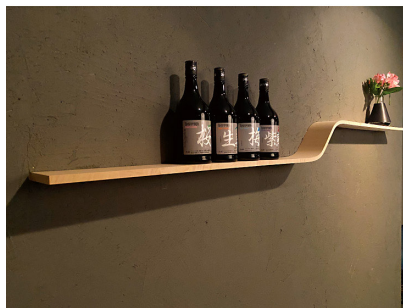
そして私は、自分の理想とするBARを設計し、実際にお店をつくり営業することを決めた。そこにはレコードがあり、その空間に流れる音楽を聴きながらお酒を飲むBARだ。BARの命とも言うべきカウンターの天板には、割れ肌が美しい神奈川県で採れる本小松石を使用した。



審査会賞
(インテリア部門 第1位)

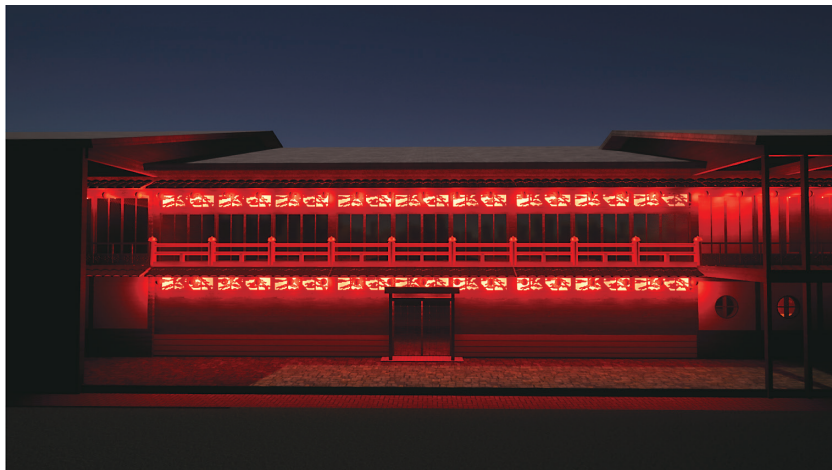
佐藤 龍之介

SATO, Ryunosuke



翠 線

SUISEN



大阪から京都へ抜ける「京街道」。

そのちょうど大阪と京都の境目に位置するのが八幡市橋本。かつては色恋が行き交い、賑わいを見せた土地。

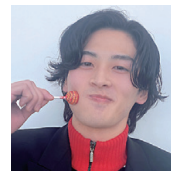
近世に花開いた華やかなりし江戸文化も昭和に入り、飲み屋や旅館へ業態変化。そして時代は令和になり、老朽化から解体される建物が増えている。夜の世界があった事に嫌悪感を示す人もいる。豪華絢爛な装飾は商売を取り繕うための虚飾に過ぎないが、「虚」に隠された実の部分、妖しげで艶めかしく、人間の本質的な部分、表に出さない裏の部分を感じられる。目を背けがちなものでも形として残し贅いでいくべき歴史ではないかと考える。

そこで、その文化の中で生まれた意匠を引き継ぎ、男女問わず誰もが気軽に文化に触れる事が出来る宿泊施設を誕生させる。

閑静な街となったこの場に、かつての色と賑わいを蘇らせる。

造作 啓介

ZOSAKU, Keisuke



グランシエスタ 都心での積極的仮眠

Grand Siesta: Power nap in the metropolis

NASAが、仕事の合間に「仮眠」を取り入れることを推奨している。それはなぜか。昼過ぎに20分程度の仮眠を取ることは、日中の脳の疲れやストレスを軽減し、パフォーマンス向上に繋がるからである。

そこで、グランフロント南館ビルの上、高さ50mの場所に雄大な昼寝を意味する「グランシエスタ」という寝空間を提案する。ここでは街の喧騒から離れ、昼寝場所はもちろん、ストンと眠るための導入から、スッキリとした目覚め、この後の活動に向けてエンジンを掛けなおす、までを提供する。「睡眠」空間をつくることで大阪駅周辺をさらに「活気」溢れる場所にすることを目的とする。



審査会賞
(インテリア部門 第3位)

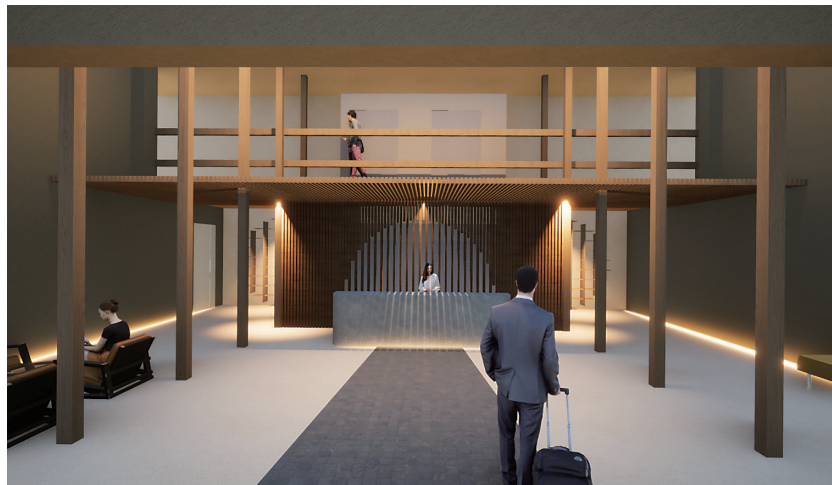
濱田 朋佳

HAMADA, Tomoka



碧 屋 京野菜と過ごすとき

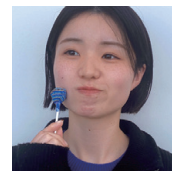
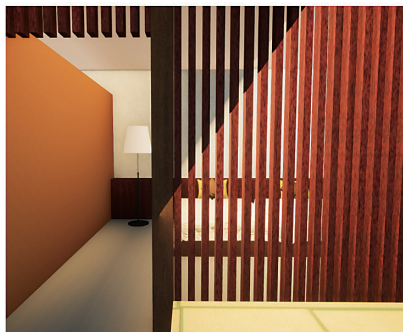
Aoya: Spending time with Kyo-yasai



長い歴史を持つ古都・京都。毎年多くの観光客が全国から訪れ、海外からの人気も高い。日本らしさを感じられる町屋や歴史ある寺社仏閣、京の食文化に注目が集まっている。

都があった平安時代の京都の中心地は、海から遠く海産物の入手が困難だったため野菜づくりが盛んに行われてきた。鴨川の質の良い水、栄養が含まれた豊かな土地、盆地特有の冬の厳しい寒さと夏の猛暑の対照的な気候。この良い条件のもとで作られた京野菜は、味や香りが豊かで、まるで芸術品だと言われるほど見た目が美しい。

そこで、京都で暮らす人々の生活を支えてきた「京野菜」をテーマとした宿泊施設を提案する。京の食文化を身近に体感し、新しい魅力を発見するきっかけに繋がればと考える。



福山 未優

FUKUYAMA, Miyu

和 旅のひとつき

WA: A moment of the journey

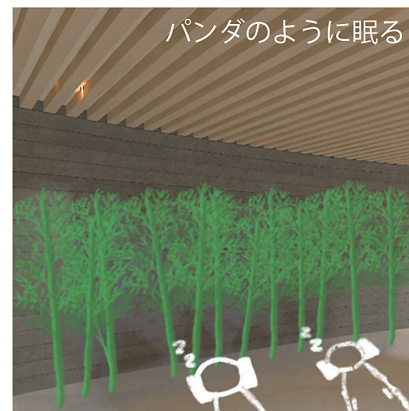
和歌山は昔から紀州・木の国と言われている。そして、山、海、川、農産物、海鮮など知られていない良さが多く存在する。これらのことを多くの人に知ってもらうために高速道路では和歌山の玄関口になる紀の川サービスエリア（下り）を和歌山を感じれる場所にする。

また、近年高速道路での事故は増加傾向にある。事故の原因は前方不注意、動静不注意が大半を占めている。私は集中力が低下しているため前方不注意で事故になるのではないかと推測し、様々なサービスエリアができていいる現在、サービスエリアを用いて事故を削減できないかと考えた。そこで多くの人に来るだけ休憩を挟みながら運転してもらうために行きたくなるサービスエリアを地元にある紀の川サービスエリア（下り）でデザインする。



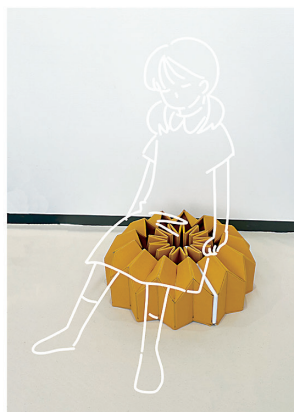
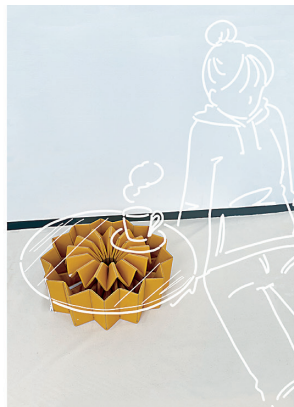
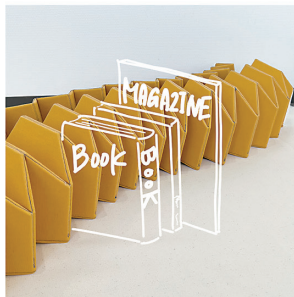
藤原 綾乃

FUJIWARA, Ayano



aster キネティック家具は気分しだい

aster: Kinetic furniture depending on your mood



変化の意味を持つAsterという花は、色や花の大きさ、咲き方までさまざまです。そんなAsterの花のように十人十色な家具を制作します。

家具を選ぶときにはシチュエーションや配置を考える人が多いでしょう。使い方はその家具の特性に委ねられています。しかし特性に委ねない家具があるとするならば？

まわしたり広げたりすることで形を変化させる家具“aster”は使い方も変化させることができます。使用者自らのさまざまな発想で“aster”を使うことで新しいインテリアとしての価値を創造するかもしれません。

審査会賞
(プロダクト・情報部門 第2位)
特別審査員賞(山本正明賞)

保田 美月

YASUDA, Mitsuki



gather 住宅街に灯火を

Gather: Light up the residential area

私たち大人は外部に人間関係を多く持ち、近所付き合いがなくても困らないが、こどもは学校あるいは住む地域でのコミュニケーションの割合が多くを占める。

私が住む住宅街は、隣人さえ近所付き合いがほとんどない。コロナ禍になって、さらに疎遠になってしまった。

そこで、住宅街の一角に交流できるカフェをつくる。

こどもをメインターゲットに、滑り台や秘密基地のような地下空間などさまざまな仕掛けを施す。コワーキングスペースも設け、在宅ワークをする人や作業に集中したい人たちにも利用してもらうことを目指す。

私と母で運営をする予定なので、1階がカフェ、2階が住居スペースの店舗兼住宅を設計する。

敷地は住宅街の公園の隣で、外部の人の視界にも入るよう、住宅街の入り口からガッツリ見える場所である。そしてキャンピングカーを置くことで自然と宣伝になる。

冷め切った住宅街にこの灯火を設けることで記憶に残る場所になればよいと願う。



山下 浩奈

YAMASHITA, Hirona



サーカス

Circus



敷地はユニバーサルスタジオジャパン、ウォーターワールドとジュラシックエリアの間。

今は使われなくなったサーカスの劇場。

かつてここは多くの人が足を運び、にぎわっていた。

しかしある事件をきっかけに封鎖され立ち入り禁止になった。

ここで何が起きたのか調査のため閉ざされた門を開くことになった。

このアトラクションは帽子に乗り、ここに取り残されたピエロを二つの視点から見るができる乗り物です。

一つ目の視点ではピエロのやさしさを見ることができ、二つ目の視点ではピエロの恐ろしさを見ることができます。

井本 彩月

IMOTO, Satsuki

